

桂スチール

BH製作1割伸ばす

今期計画 経常益10億円確保

桂スチール(本社〓兵庫県姫路市、三木桂吾社長)は今期(2018年9月期)、BH製作量について年間8万トと17年9月期実績見込み比1割増を計画している。首都圏の超高層の再開発案件、大型の工場・物流倉庫、空港施設関連などの受注を強化するとともに、大型サイズのBHの生産・二次加工を強化していく。一連の取り組みなどにより、業績は売上高で120億円と前期比約10億円増、経常利益は前期並みの10億円の確保を目指す。



三木社長

同社は国内最大手のBH製作業者。岡山第

1工場、岡山第2工場、岡山第3工場、岡山第5工場、玉野工場(岡山県玉野市)、玉野第2工場(同)、姫路工場を持ち、BHの製作・二次加工を行うとともに、仕口加工・梁加工、建築向けの切板を行っ

ている。前期(17年9月期)の業績見込みは売上高が110億円と16年9月期比約20億円増、経常利益は同約4億円増の10億円程度となる見込み。主力のBHは首都圏の超高層物件や大

型工場向けの製作・受注が好調で、BH製作量は年間約7万トと同1割増となったことに加え、二次加工を含めた効率的な製作体制により、コスト抑制の効果がよるもの。今期も建築需要は高

層・超高層物件が首都圏を中心に好調に推移する方向にある上、オリンピック関連の施設も期待でき、他の都市圏でのホテル、全国的には大型工場、物流倉庫などの案件も多いことから、主力のBHについては年間8万トの製作を目指す。特に、大型サイズや異形物など同業他社では製作できない高付加価値の製品の比率をさらに引き

上げていく。この一環として、大型サイズのBHの二次加工の強化のため、今年11月に岡山第2工場の隣接地に大型鋼構造部材に対応した二次加工専用工場を開設する。開設後はBHで最

大25000×10000までの大型サイズの二次加工が自動化対応できる体制とする。大型サイズの輸送は湾岸を有する玉野工場、玉野第2工場のインフラを引き続きフル活用していく。

また、BH以外の事業については仕口加工・梁加工は最低でも前期並みの月間800トを予定している。これ以外に、今年11月に岡山第2工場の近くに「構真柱」の専用工場を建設し、同製品の受注を強化していく。建築用の切板は前期が月間平均で400トだったが、今期は前期実績以上の数量を目指す。